

供試犬 番号	供与内の種 別 入 量	供 与 日 時	供 与 後 の 状 況				
			10月18日 午後4時15分	10月19日 午前8時	10月19日 午後8時	10月20日 午前10時	10月21日 午前8時
1号	生肉600P	10月18日 午後1時	喰い残し 40P	異状なし	異状なし	異状なし	異状なし
2号	煮熟肉 00P	〃	全部食す	〃	〃	〃	〃
3号	肝臓肉00P	〃	全く食わず	〃	〃	塩煮肉煮熟 500P供与	〃
4号	肝臓煮熟 450P	〃	3号内の喰い 残し全部食す	少し振え 気味	〃	〃	〃

所 感

供試犬に異状のなかつたことからこの毒は毒素がなかつたことは分つたが食用に供さなかつたことは善いように思われるが心配しながら食した場合果して營養として取入れられるか否かも要わしいので品種の不明なものは肥料等に利用し食用に供することは勧められないアオウミカメ、アカウミガメ、タイマイ、オサガメ等食用に供しているがタイマイは中毒症状を呈するものと然らざるものがある様で外観では見分けが困難なようであるタイマイは背甲は龜甲として高値に売買されるので甲のみ利用し肉は食用に供しないことを勧めたい。

7 アサケマノリ (Porphyra tenera) 増殖試験

趣 旨

日本々士で盛に行われ相當の収益を挙げている日本産あまのりの増殖が琉球沿海の浅海においても増殖可能かどうかを調査研究することも琉球島海利用増殖のため緊要なことと思われれるので、大分県水産試験場の厚意により種苗の供給を受け本試験を実施することにした施設の敷設年月

1960年11月17日から3月1日まで

施設場所

具志川村港川北部の川口の北岸寄

具志川村港川部落の北部を流れる川口は巾広く入江状を呈し干潮時には兩岸の干出部が多く底質礫浜りの砂泥で杭の建込も容易でその上海水の交流も風通しもよく見通しもきいて管理の面も便利であるので川口の北岸寄りのところを試験場所とした。

施設状況

両岸に杭(木口50mm、高さ17m)を1.8m間隔で建て更に北の杭列と平行に1.8m離して杭を建てその二列の杭の間に種付された網(クノモナ糸1.2mm巾目120mm)を水平に張り渡し満潮時には水面に再び干潮時の干出時間を3~4時間位置になる様に敷設しその種子の発芽成育の様態を調査研究することにした。

経 過